

# Roots of Arts

ZAWAMEKI ART  
EXHIBITION 2023

入場無料

ザワメキアート展 2023 ルーツ オブ アーツ

長野県立美術館 B1F しなのギャラリーB / ホール

2023/12/9 (土) - 12/25 (月) 12/13 (※) 12/20 (※) 休館

主催 長野県 | ザワメキサポートセンター

<https://zawameki-art.com>





障がいのある人が表現した作品に向きあったとき  
どこか心がザワザワとした不思議な感覚を覚えるものがある  
忘れていた 眠っていた 自分の感覚のどこかが  
くすぐられたり 揺さぶられたり… そんな作品を展示します

## ZAWAMEKI ARTISTS

ゲストキュレーター堤隆によるザワメキアートのご紹介



おおくぼ ふみこ  
**大久保 文子** (上田市)

ヒトは縦横の糸を織りなすことで、新しい文化を創造してきた。  
大久保さんが紡ぎだす無限の連鎖はどんな糸口を暗喩するのか。



たけうち かずき  
**竹内 一貴** (伊那市)

漆黒の背景に描かれる鮮やかな光。その思考  
世界は、奈辺を彷徨しているのか。



みやざき よしはる  
**宮崎 義治** (北佐久郡立科町)

さまざまな色彩が散りばめられたこの  
プリコラージュは、人類学者レヴィ＝  
ストロースが近代合理主義の対岸に示  
した「野生の思考」とも共通するのかわ  
もしれない。



つるみ よういち  
**鶴見 洋一** (安曇野市)

鶴見さんが作り出す頭蓋の背後  
には、いったいどのような思い  
が詰まっているのだろう。  
坂本龍一の言葉を借りるなら、  
さしずめビハインド・ザ・マスク  
ということなのだろう。



かさはら まさと  
**笠原 正人** (上田市)

ニューズペーパーやチラシなど  
たくさんの文字を濃縮した笠原  
さんの作品は、さながら記憶を  
刻みこむ細胞のようではある。



ゆもと ひさこ  
**湯本 久子** (長野市)

思考はカオスの中から生じ、やがて核心へとたどりつく。  
湯本さんのキャンバスにはそんなプロセスが描かれているのだろうか。



さいとう まさひろ  
**齋藤 匡広** (北佐久郡立科町)

人体表現はヒトの個性を際立たせる。齋藤さんは女性にあらず力士の乳房を表現した。



こあら  
**コアラ** (上田市)

魂というのはおよそ孤独とともにあるが、群れなす魂とも見えるこの作品は、色鮮やかで、むしろ開放感を覚える。



よしだ まさみ  
**吉田 雅美** (北佐久郡立科町)

ヒトはことばを手にし絆を結んでいった。  
彼女の紡ぐ言葉に耳をすませてみよう。  
(朗読)



さわだ かずき  
**澤田 和樹** (駒ヶ根市)

石を配するという行為には何が秘められているのだろう。記憶の布置、数の記録?いずれにせよ石器時代からヒトは石を並べ続けている。



まき かずお  
**牧 一雄** (飯田市)

さまざまな細胞のパッチワークから組みあがる生体。  
牧さんの配色にそんな想いを寄せてみる。

# ザワメキアート展って？

誰から教わったわけでもなく独自の創作を行っている。作品に強いこだわりが感じられる。よくわからないが、なんだかすごい。ユニークで笑ってしまうような不思議な魅力がある。…長野県では、そんな基準で選ばれた作品を2016年から紹介してきました。2022年以降は、これまでの「ザワメキアート展」のレガシーを継承しつつも、新たな試みとして、毎年様々な分野でご活躍のゲストキュレーターをお迎えし、それぞれの視点からザワメキアートの魅力を紹介していきます。

ゲストキュレーター

つつみ たかし

**堤 隆** 考古学研究者

1962年長野県生まれ。國學院大学大学院博士課程修了。博士(歴史学)。専門は旧石器考古学、縄文考古学、博物館学。日本列島に最初に現れたサピエンスがどのような生存戦略をはかったかを研究。現在、明治大学黒曜石研究センター客員研究員。東京大学では旧石器研究を講義。館長を務めた浅間縄文ミュージアムでは、考古学のみならずオール・ブリュットなど多様な企画展を展開した。

## 「Roots of Arts」に込めた想い

現生人類(ホモ・サピエンス)は、地球上の他の生物とは画されるさまざまな資質を備えているが、アートは最もヒトらしい才能の開花と言える。すなわちわれわれ人類を、「芸術するヒト」=ホモ・アーティエンス\*と呼ぶことも可能だろう。現代キュビズムの泰斗ピカソが登場する遙か以前、4万年前のフランスのショーベ洞窟にいた最古の画家たちも、すでに遠近法と立体法を駆使した動物の壁画を描いていた。ドイツのホーレ・フェルス洞窟では、白鳥の骨でできたフルートが発見された。絵画だけでなく、音楽も愛でていたことがわかる。今回は、ザワメキのアーティエンスの作品群中でも、原始的・根源的な香りのするアートについてご紹介することとした。すなわちルーツ・オブ・アーツである。\*堤による造語

## 長野県立美術館 入場無料

B1F しなのギャラリーB / ホール

2023/12/9(土) - 12/25(月)

12/13(水) 12/20(水) 休館

〒380-0801 長野市箱清水1-4-4

TEL: 050-5542-8600 (ハローダイヤル)

開館時間: 9:00-17:00 (入場 16:30 まで)



駐車場はございません。公共交通機関をご利用いただくか、近隣の駐車場をご利用ください。

※但し、障がいのある方が利用できる駐車場有り

12/9(土)

オープニング 10:00-11:00

テープカット、キュレーターによるギャラリーツアー

対談 13:30-15:00 堤隆×ロジャー・マクドナルド

「ヒトはなぜアートを手にしたのか？」

考古学と美術史それぞれの専門家が、原始のアート×ケアとしてのアートの観点からお話しをしていただきます。

- 講師: 堤隆、ロジャー・マクドナルド (ザワメキアート展 2017~2019 審査員 / NPO 法人 AIT プログラムディレクター)
- 進行: 大谷典子 (元麻布ギャラリー-佐久平 ギャラリスト)
- 参加費: 無料
- 会場: ホール (B1F) 特設コーナー

12/10(日)

ワークショップ 10:30-11:30 / 14:00-15:00

「黒曜石の垂飾(ペンダント)をつくろう！」

今から3万8000年前、最初に日本列島を訪れたサピエンス(新人)たちは、見たこともない耀きをもつ石を発見します。ガラスのように切れる黒曜石です。それは実用のナイフであるとともに、シンボリックな工芸品ともなりました。その貴石=黒曜石で垂飾づくりに挑戦します。

- 講師: 堤隆 ●定員: 各回12名程度 ●参加費: 500円
- 会場: ホール (B1F) 特設コーナー
- 参加方法: ホームページ応募フォームよりお申し込みください。

※イベントの詳細につきましては、ザワメキサポートセンターへお問い合わせください。

WEB 作品展開催します 2023/12/9(土) より開催

<https://zawameki-art.com>

問い合わせ先 ザワメキサポートセンター (長野県障がい者芸術文化活動支援センター)

〒381-0034 長野市大字高田364-1 社会福祉法人長野県社会福祉事業団 本部事務局内

TEL 026-217-0022 FAX 026-228-0310 E-Mail art@nagano-sw.c [受付 月曜-金曜 9:00-17:00]



主催 長野県 | ザワメキサポートセンター 共催 長野県教育委員会 | 信州アーツカウンシル(一般財団法人長野県文化振興事業団)

障害者芸術・文化祭のサテライト事業 / 長野県県民芸術祭 2023 参加

ZAWAMEKI ART EXHIBITION 2023  
Roots of Arts